

令和4年6月14日

茨城県県民生活環境部長 川 股 圭 之 殿

防災環境産業委員会	委員長	外 塚	塚 本	一 也
	副委員長	塚 本	田 信	夫
	委員	白 村	上 典	男
	同	豊 田	田 茂	茂
	同	鈴 木	義 浩	浩
	同	二 川	英 俊	俊
	同	江 尻	加 那	那
	同	福 地	源 一	郎

霞ヶ浦水質保全対策等の充実・強化に関する提言

霞ヶ浦は、上水道や農業及び工業等における重要な水源であるばかりでなく、県民に環境学習の機会や憩いの場を提供する自然の宝庫でもある。水質浄化とともに、自然環境の保全・創出、そして、水や自然に直接ふれながらの環境教育の推進は、県政のみならず県民にとっても重要な課題である。

令和4年度においては、水質浄化効果が高い事業に対し予算が重点化されたものの、生活排水対策の事業規模の縮小や、湖上体験スクールの回数の削減等がされたところである。

「泳げる霞ヶ浦」の実現のためには県民の環境保全意識の醸成は必須であり、体験型学習の継続実施や、浄化対策の一層の充実・強化を図るため、引き続き予算を集中的に投資すべきである。

このようなことから、下記に留意のうえ、霞ヶ浦水質保全対策等の充実・強化について特段の配慮をされるよう要望する。

記

- 1 窒素・リンが除去できる高度処理型浄化槽の設置を促進するなど、生活排水対策の充実・強化に取り組むこと。
- 2 湖上体験スクール等、霞ヶ浦の水や自然に県民が直接触れることができる体験型環境学習及び自然環境科学に関する学習の充実を図ること。
- 3 大学や研究機関等と連携し、霞ヶ浦環境科学センターにおける効果的な調査研究・技術開発の推進を図るとともに、県民に対し、研究結果等を分かりやすく情報発信すること。